

秋季東京都大会のご報告「甲子園準優勝校と対戦！」

硬式野球部

秋季東京都高等学校野球大会が10月5日より開幕しました。約260校中の上位64校による大会で、来春のセンバツ甲子園出場校を決める大会でもあります。

抽選の結果、本校は今夏の甲子園で準優勝した「関東一高」との対戦となりました。3連休の初日、絶好の天気にも恵まれ、江戸川球場の一般席は満員に近い観客でした。さすがに甲子園準優勝校、注目度の高さがうかがわれました。

10月12日（土曜日）、J P アセットスタジアム江戸川球場、8：55開始、試合時間2：05

				得点	安打	犠打	四球	三振	失策	バッテリー
府中東	1 0 0	0 0 0	0 0 0	1	6	0	2	9	1	池田、斎藤一小野
関東一	2 2 0	1 1 1	0 0 ×	7	1 2	4	4	1	0	坂本、石井、松沢一中濱

関東一高は、夏の全国高校野球選手権準優勝チームです。三日前まで佐賀でおこなわれた「国スポ」に参加していた、全国でも屈指の強豪校です。新チームでも今夏の甲子園での3番と5番打者が残り、投手も甲子園の明德義塾戦で先発した二年生投手が残っています。

試合当日の10月12日は3連休の初日で、勝ち進むと二日後の14日に強豪チームとの対戦が控えているため、関東一高の当日の先発が誰なのか、読みづらい中、先発投手は夏の明德戦で先発した、この秋の背番号1。二年前のジャイアンツカップ優勝投手でした。本校は抽選で関東一高と対戦することが決まって以来、MAX139km対策として、すぐにマシンをメンテナンスして速球対策を10日間してきました。

果たして1回表、速球対策が功を奏して、相手エースからいきなり3安打で1点を先取。さらに一死満塁で6番打者を迎え、カウント1-2から3バントスクイズを敢行。しかしスライダーを空振りしてしまい、三振併殺。結局初回の攻撃は3安打1四球で1得点にとどまってしまいました。2点目が取れているとまた違った展開になっていたはずでした。

1裏、相手も3安打で1-2の逆転。四球やエラーの絡んでいない、打たれた失点でした。

しかし本校は2表も先頭打者がレフトオーバーの二塁打。一死からもう1本、安打が出ましたが、得点には結びつきませんでした。それでも相手エース投手から2イニングで5安打を奪いました。

本校にとって痛かったのは2裏。一死2塁からの三盗を刺して二死無走者。しかし9番打者にカウント3-2から際どい球を見送られて四球。続く1番打者に、詰ませましたがレフトオーバーの2ラン本塁打。球場が本大会では一番狭い、両翼90mの江戸川球場であったことが不運でした。

3回以降、相手3投手の継投（いずれも中学時代にジャイアンツカップ出場チームの投）の前に7イニングを1安打1四球に抑えられてしまいました。本校も3回以降はピンチを迎えながらも6イニングを3点にしのぎました。

結局、打線は6安打1得点に抑えられてしまいましたが、守備面では逃げた四球や失策による自滅もなく一死満塁でのホーム併殺や、無死2-3塁から犠牲フライによる1点のみにしのぐなど、全国クラスの強豪チームを相手にひるまずに9回まで守れたことは大きな収穫でした。最も印象に残ったのは、相手打線の低く鋭い打球で、フライアウトが3つしかなかったことです（2つの犠牲フライを除く）。

ジャイアンツカップ、NPB ジュニア、U15など中学時代に全国大会を経験した選手が揃う相手に対して、このゲームでの本校のスターティングメンバーは全員、軟式チーム出身でした。

